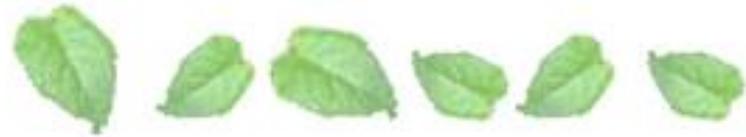




**自律神経失調症改善  
臨床編 その1**



## ❖はじめに

### 【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

### 【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

## もくじ

1 : 東洋医学の力は手相も変える?.....	4
2 : いびきがうるさいと妻に言われて・・・.....	9
3 : 目の周りが痒く、声が出にくい。.....	12
4 : 目が痒くて何も手を付けられない!!.....	16
5 : スポーツドリンクで発熱? .....	20
6 : 自律神経失調症の治療過程で!!.....	28
7 : 疲労からめまいと不眠 .....	32
8 : 原因不明のイライラ .....	39
9 : めまい復活!! .....	43
10 : 疲労から不定愁訴に!! .....	47

## ❖ 1 : 東洋医学の力は手相も変える？

40代 女性

仕事のストレスにより、何年も前から過食症と拒食症を繰り返し、自律神経失調症となる。

さらに、母親が旅行先の山梨で倒れ、毎週、看病のために東京と山梨を往復し、心身ともに疲れ果てている。

最近では、背中が非常に痛く、頭痛、胃痛、吐き気、ゲップなど様々な症状で悩んでいると3年前に来院。

現在も定期的に、退院された母親と共に、元気に通われている。

この患者さん、初診時には、脈は弱く、冬場なのに汗をビッショリかいていて、まさしく陽虚症（疲れ果てて生きるパワーが少なくなっている状態）そのもの。

そして、身体を触っても、今にも倒れそうな身体を精神力だけで、持ちこたえている状態だった。

現在は、大分仕事の量を減らし、心身ともにかなり回復している。

そこで、この患者さんから、最近お話ししていただいたことがある。

「実は、キュアハウスに来る、ずっと前に知り合いで手相を見れる人がいて、その人に見てもらったことがあるんです。

すると、「悪いけど、近い将来死んでしまうかもしれない。」  
と言われたんです。

その頃も、本当に身体がボロボロだったから、そうかもと  
思って、いろんな治療を受けていたんです。

でも、なかなか、効果が出なくて…。

それから、キュアハウスに通うようになって、どんどん楽  
になって、今があるんです。

そして、最近、またその手相を見れる人に会って、まだ生  
きていることにビックリされつつも、手相を見てもらった  
んです。

すると、「あれ？手相が変わってる。別人の手みたい。生ま

れ変わったでしょ！」と言われたんです。」

手相も変わり、死期も遠ざかり、元気になる。

手相を変えるような特別な治療をしているわけではないが、これが、東洋医学の素晴らしいところであり、不思議なところである。

身体の変調を、身体のサインや感覚に応じて、処置を施すことで、症状ばかりか性格まで変わる人がいる。

こんな素晴らしい医学だからこそ、2000年以上も続いているのだろう。

なぜ、日本では、まだまだ知名度の低い医学なのか不思議でならない。

江戸時代までは、東洋医学の方が主流だったはずなのに…。

みなさんが健康になり、そして幸せになれる、そんな道筋をつくれる東洋医学を、もっともっと研究し、より完成された治療者へとなれるよう、これからも努力し続けたいと思っています。

## ❖ 2 : いびきがうるさいと妻に言われて・・・

40代 男性

最近、妻に「いびきが、うるさくて眠れないよ！」と言われ困っていると来院。

肩こりや首の痛みは、何年も前からあるが、今はいびきの方が気になるらしい。

うつ伏せで、背中を診ると、かなりストレスが強そうで、脈はしっかりしていることから、内臓の影響はないとみて、ツボの反応を頼りに治療していく。

まず、背中のストレス性緊張を取るように、手足に鍼を打ち、取りきれない緊張にも直接打つ。

そして、仰向けになり、首を触ってみると、後ろ側は柔らかいが、前側にかなり緊張が強く表れている。

さらに、胸の真ん中のライン上も、かなり固くなっている。

表面の筋肉がこれだけ固まっているということは、中の気道や食道も、固くなっているか腫れているかのどちらかである。

そこで、これらの固さを手足の鍼で、誘導的に取っていく。

かなり、柔らかくなったところで終了。

仰向けの状態で、治療中にいびきをかいていなかったのも、まずまずの成果は出るかと思い終了。

その1週間後に、たまたま、奥様が見えたので、ご主人の

いびきに関して、それとなく聞いてみると、「そう言えば、最近静かだわ！」と、言うことである。

さらに、その1週間後に当人が見え、いびきのことを聞いてみると「最近は、言われなくなりました。」とのこと。

いびきの治療は、たまに経験するが、今回のように、意外と首の前側の緊張が抜けると、収まるようである。

問題は、太っている方で、しかも首全体がフニャフニャしている場合である。

これは、完全に、気道を脂肪が塞いでいる状態なので、痩せない限りは難しいだろう。

痩せ形で、いびきに悩まれている方は、一度近くの鍼灸院で診てもらおうといいかもしれない。

### ❖ 3 : 目の周りが痒く、声が出にくい。

60代 女性

何年も前から、目の周りが痒く、こすってしまうため、黒くシミになっている。

花粉症もあることから、この痒みも花粉症の影響だろうと病院で言われた。

また、ストレスから家に引きこもることが多いため、人と会話する機会もなく、声が出にくくなってきた。

その他にも、たくさんの症状があるが、今回はこの二つに絞った治療をしたいということである。

脈を診てみると、かなり太くなっているが柔らかい。

これは、かなり疲れが溜まっているが、陽気（興奮性の気）  
がたくさんある証拠。

そして、陽気は、上昇性の性質と温める性質を持っている  
ため、目の周りのかゆみをつくっている。

それと同時に、疲れのせいで、気道の広さを維持すること  
が難しくなり、声が出にくくなっていると診断した。

治療内容は、鍼で疲れの元である、陰気不足を補充するこ  
とで、陽気とのバランスをとり、上昇性を抑えることにし  
た。

鍼を刺し、しばらく置いてから、目の状態を聞くと、「かゆ

くないです。」とのこと。

のどの感じはまだ、良くならないので、少し延長して、鍼をそのままにしていると、声の方も出やすくなった。

元々は、ストレスにより不眠症となり、自律神経が乱れてしまい、いろいろな症状が出てきたようだ。

疲れが溜まると、身体を支えるパワーがなくなってしまう。

ビルで例えると、外壁や柱が崩れてきた状態。

外壁を陽気、柱を陰気とすると、この患者さんは、陰気がすくなくなり、外壁だけで頑張ってきた身体。

そのため、外壁もだんだんボロが出てきて、目も周りの黒

いしみとなって表れてきた。

従って、柱をしっかり作りかえ、外壁の負担を減らすことで症状が一時的に治まったのである。

しかし、肝心のストレスが抜けないことには、不眠も治らず再度いろいろな症状に悩まされるだろう。

ストレスに打ち勝つ精神力が必要なのだが、そこは少し萎えている面があり、難しそうである。

こういう状態の場合は、疲れをためないように、コマ目に身体の手入れをしていく必要がある。

疲れさえ溜めなければ、外壁や柱が崩れることはないのだから。

## ❖ 4 : 目が痒くて何も手を付けられない！！

60代 女性

うつ病と診断され、抗うつ剤を4年間服用。

不眠症もあるため、睡眠導入剤も服用。

さらに、手足の関節痛も強く、安定剤と鎮痛剤も服用している。

そして、この一年ほど目の周りが痒くて、搔かずにはいられない。

そのため、目の周りに黒いしみができてしまった。

このかゆみも、薬で対応しているが、どんどん痒さが強くなっている。

症状が多すぎるため、あまり言葉に惑わされず、身体の反応を頼りに治療を開始。

背骨は、海の底に沈んでいるような状態で、むくみの中にあり、ほとんど触れることができない。

そして、脈もかわいそうなほど細く力がない。

まず、棒灸で、背骨の上（触れないので想像で行う。）を、むくみを流すように上から下へ何度も繰り返す。

すると、若干背骨が触れるところまで、むくみが抜けたがかなり時間がかかる。

仰向けになってもらい、お腹を触ると、擦るだけでも痛みがある。

そこで、手足に鍼を打ち、痛みを散らす。

若干、押さえられるようになったところでお腹も終了。

最後に、目の周りの痒さがあるところに、棒灸をあてる。

かなり乾燥しているが、潤いが出てくるまでひたすらあてていると、若干目の周りに汗が出てきた。

すると、「目が涼しくなって気持ち良い！！」と言い始めた。

目の回り全体の潤いが出たところで、かゆみがあるか聞いてみると、全くないとのこと。

このように、お灸は、かゆみに即効性がある。

しかし、この患者さんは、大量に薬を服用していて、不眠もある。

そのため、あまり、効果が長続きすることはないだろう。

効果を長続きさせるためには、薬を全て止めて、熟睡できるようにしなければならない。

長い戦いになりそうだ。

## ❖ 5 : スポーツドリンクで発熱？

40代 男性

1週間前、急な発熱と吐き気、頭痛が強く会社を休んだ。

熱は出るが風邪ではないようで、休んでいれば治ると思っていたが、なかなか体調が戻らない。

うつ伏せで、背中を診ると、暴飲暴食の反応がある。

脈からは、肝臓と消化器系が異常に興奮していて、それ以外の臓器はかなり疲れているようだ。

このような反応から、胃酸が出過ぎていることがわかる。

その原因は、スポーツドリンクだった。

前にも、同じようなケース ([間食しすぎて肩こりに！！](#))  
をご紹介したが、だらだらと食事を続けたり、間食をこまめに  
取りすぎると、常に胃は胃酸を出し続けなければなら  
なくなる。

この患者さんは、よく世間で「水を2リットルから3リッ  
トル飲むと身体に良い。」という情報を聞くので、それならば、  
スポーツドリンクの方がもっと身体に良いはずと思いこみ、  
一日に2リットルほど飲んでいたらしい。

それでいて、普通に食事も取っている。

そして、大問題なところは、運動することもなければ、汗  
もかいていないというところだ。

当然冬場は汗をかきにくい、しかも冷たいスポーツドリンクをどんどん飲んでいる。

そのため、腸は冷え、消化吸収しにくくなり、胃は、どんどん栄養価の高い飲み物が入ってくるため、胃酸を出さなければならぬ。

胃酸が出過ぎた胃の中は、少しずつ胃粘膜が溶かされていく。

そのため、吐き気が起きやすくなる。

そして、食事を普通に取っていても、スポーツドリンクで腸を冷やしているため、消化できずにどんどんお腹に溜まってしまふ。(腸は、温まらないとうまく働かない。)

溜まってしまったものは運動すれば何とか出せるが、本人がその事に気付いていなければ出しようがない。

そこで、身体は、運動と同じような反応を無理やり起こすことがある。

例えば、発熱、震え、痙攣などである。

この患者さんの場合は、発熱という形で反応が表れた。

また、胃や肝臓に炎症が起きると、頭痛が起きやすくなる。

これは、東洋医学独特な考え方ではあるが、炎症は、火と同じである。

従って、火は、上に向かって燃え広がる習性があり、腹部

内臓の中で一番上に存在する胃と肝臓に炎症が起きると、上に燃え広がってしまう。

肝臓は、胆嚢から十二指腸につながっており、胃は、十二指腸の手前に位置する臓器。

胃と肝臓は、管でつながっているため、火は、胃を通過して、食道から口、そしてその上にある脳に広がり、頭痛を引き起こすのである。

火が燃え上がろうとしても、スポーツドリンクで冷やされ、一時的に治まってしまうので、なかなか症状を表さない。

表したときには、かなりの症状になって表れるので大変だ。

このように、スポーツドリンクを飲み続けているだけでも、

このような苦しい症状が表れることがあり、身体は相互的に助け合っていることがわかる。

この患者さんの症状を治すためには、まず、間食すなわちスポーツドリンクをしばらくやめること。

飲み物だけでなく、3食以外は、あまり口に入れない方がいいだろう。

ただ、胃酸の出やすい状態があるため、一度に間食をやめてしまうのも危険である。

少しずつ抜いて、止めていってほしい。

そして、冷やしてしまった腸を、温かい飲食物で温め、しっかり睡眠を取ることで、本来の働きができるようにする

必要がある。

その手助けとして、水分代謝と胃腸機能の回復、そして睡眠を取りやすい状態に持っていくように、お灸を行い終了とした。

健康を維持するためには、胃と腸の関係、そして交感神経と副交感神経の関係が、非常に重要なポイントを握っている。

東洋医学では、陰陽のバランスで健康を保つという概念がある。

胃は交感神経、腸は副交感神経が機能させている。

そして、胃は、食べる時や日中に活動し、腸は消化吸収や

休息、睡眠時に活動する。

陰気は、日が沈んでいる時、陽気は、太陽が出ている時に、  
活発化する。

日が昇り、日が沈む。

動いて、休む。

食べて、消化する。

このように、同じことをずっと続けることよりも、やったら休むというバランスが大事なのである。

## ❖ 6 : 自律神経失調症の治療過程で！！

40代 男性

疲労感、不眠、めまいなどがあり、心療内科をはじめ、精神科、鍼灸、整体などを渡り歩くも、効果なく来院。

自律神経失調症と診断され、漢方を処方されている。

自律神経失調症特有の目をもっている。

そして、肩と背中が非常につらく、鉄柱が入っているように感じているという。

しかし、実際触診してみると、背中、背骨の周りにむくみが強く、肩の筋肉もフニャフニャ。

完全に身体の状態と自覚との差が出ている。

これも自律神経失調症の特徴である。

このような特徴を取り除くように、鍼灸を10日に1度のペースで5回行った。

その5回目の夜から下痢をし始め、6回目も同じく下痢になった。

そして、7回目には、1日半経っても下痢が止まらず、たまらなくなり病院へ行ったら、「何かに中ったんでしょう。」と言われたらしい。

「でも下痢が止まったら、身体は楽になっていませんかでしたか？」と聞くと、「確かに、眠りも深くなったし疲労感も

違うんですよねえ。」と不思議がる。

これは、東洋医学特有の好転反応だったのだ。

東洋医学では、病気を治す時に汗吐下法というのを使う。

汗・・・発熱させ発汗する。

吐・・・吐かせる。

下・・・下痢をさせる。

このような方法を取って、病気の元を体外に出すことで、  
病気から立ち直らせるのである。

このような状況を、狙って作用させる先生もいるようだが、  
私は、身体が勝手に病気の元を外部に出す力が、起こるよ

う調整していただくだけである。

現代の病気や不調のほとんどが、疲労の蓄積により発症する。

従って、無理に汗吐下法を使うと、返って体力低下を招く危険性がある。

そのため、自分の力で出し切れるような体力を作っていくことが重要なのである。

この患者さんは、急に体力が回復したため、1日半も出し続けたが、その後止めるパワーを出せなかった。

しかし、かなり出し切れたため、ほとんどの症状が出なくなった。

本当に身体は面白い。

## ❖ 7 : 疲労からめまいと不眠

40代 男性

3年ほど前から仕事が忙しくなり、疲労が抜けなくなる。

その後、めまいや不眠が起きるようになる。

調子の良い時でも、午前中しか体力がもたず、午後からは、首や肩の痛みに耐えているだけである。

病院では、問題なしと言われる。

そこで、漢方医に見てもらおうようになり、漢方を飲み続けているが変化なし。

以上の状態で1回目の治療を行う。

目立った点は、首、腰、上腹部、目が非常にむくんでいる  
というところ。

そこで、これらを棒灸にて整えていく。

そして、普段からも、身体の隅々まで栄養が行き届くよう  
に、銀粒を張る。

10日後、肩こりは楽になり、めまいも減少、不眠は変化な  
し。

むくみはなくなり、筋肉に緊張感が出てきた。(体力がかな  
り回復してきた証拠)

そこで、今度は緊張をほぐすことで、睡眠を取れるように鍼を行う。

10日後、睡眠が、3日に1回は、しっかりとれるようになった。

めまいはほとんど出なくなっている。

前回後、ひどい下痢をしたらしく、これで、消化活動が活発化したことが証明された。

これにより、睡眠が取れやすくなったのだ。

今回も鍼を行う。

2週間後、早朝覚醒(朝早く目覚める)だけが、たまにでる。

仕事中に、頭の中が回るようなことが、たまに起きるが、仕事のペースを抑えれば止められる程度になる。

首のむくみが取れた分、後頭部の固さが顕著に現れ出した。

これが取れば、ほぼ終了になるだろう。

今回も鍼を行う。

これを、2週間おきに、以後2回行う。

10日後、前回後、またひどい下痢を起こす。

心配になり病院へ行くが、特に問題ないと言われ、整腸剤だけ処方される。

今回は、前回以上の排便量だったらしく、かなり体力も奪われた感じである。

そのため、灸で体力回復と胃腸を整える。

1ヶ月後、めまい、不眠がなくなる。

仕事も夕方までバッチリできるようになり、その後の飲み会にも出席できるようになる。

当院へ来院当時は、漢方を飲んでいたが、2ヶ月ほど前から止めていたらしい。

そして、身体の状態を診ても、後頭部の固さも抜け、ほとんど問題ない状態になったので、完治とした。

約3ヶ月で8回の治療により、不定愁訴が完治した例である。

内臓異常による、体調不良の場合、鍼灸治療を行っていくと、意外と治る過程で下痢を起こすケースが多い。

これは、現代の主たる問題で、食べ過ぎによる異常であることがわかる。

「周りの人や、昔の自分と比べて、食べる量が減っているから、決して食べ過ぎてはいない。」と思っている人が多く見受けられる。

しかし、体調を崩す前には、必ずと言っていいほど、膨満感や日中の眠気、便秘や下痢を経験している。

この段階で、食事量を減らしたり、回数を減らしたりしていれば、回復するのだが、それでも体力を付けようと食べてしまう。

このようなパターンで、体調不良を起こす人が多くなっているのだ。

調子が悪い時は、食事を減らすことを最優先してみよう。

## ❖ 8 : 原因不明のイライラ

30代 男性

ここ最近、なぜかずっとイライラしている。

特別、嫌なことがあったわけではない。

最近、変わった事といえば、運動不足解消に4kmほど歩くようになったこと。

そのおかげで、体調は良くなってきたと思っていたところ、イライラ感が始まったので悩んでいるとのこと。

まず、脈を診てみると、上半身が興奮気味であるので、イライラするのもわかる。

しかし、下半身の脈が全く触れない。

これは、イライラが問題なのではなく、最近歩き始めたことで、脚の筋肉に疲労が溜まっている現れである。

下半身を急に使い始め、疲れているのに気付かず、脚にだけ疲労が蓄積してしまったのである。

人間の身体では、下半身は土台とならなければならない。

従って、ガッチリと身体を支えられることが最低条件である。

しかし、今の状態では、とても身体を支えられる状態ではない。

そのため、上半身が常に緊張状態にあり、怒っている時の身体の使い方に似てしまったことで、勝手にイライラしているようである。

そこで、背中の緊張をほぐしながら、脚の疲れを取るようにお灸を行った。

これで、起き上がってもらおうと、脚の軽さに驚いていた。

そして、肩の荷も下りたように感じたようだ。

今回のように、身体と精神は、密接に絡んでいる。

従って、身体が疲れていたら、精神も乱れてしまうのだ。

最近は、自律神経失調症やうつ病が増えている。

そのほとんどが、疲労の蓄積から始まっていることに、目を向ける必要がある。

疲労を取り除くことから治療を始められれば、不要な薬を飲まずに治すことができるはずだ。

本当に薬を飲まなければならない精神神経系患者は、ほんの一握りしかいないということを知っていた方がいいだろう。

## ❖ 9 : めまい復活！！

30代 女性

3年半程前に、めまいで来院した女性。

当時、病院では、CTによる検査で異常はなく、ウイルス性腭炎や低血圧による異常と診られていた。

そして、数々の処方薬を服用したが、まったく効果なく、「これは、体質から治さなければダメなのでは？」と考え来院。

全身を隈なくチェックした結果、問題は、背骨と顎関節にあった。

背骨の一番下の関節と、顎の関節の安定感がなくなってい

ることで、めまいを起こしていることが分かり、ここを整  
体と灸で整え1年ほどで完治した。

ところが、最近久し振りにめまいが始まったとのこと。

原因は、いろいろ考えられるが、やはり疲労が一番ではな  
いかということ。

その疲労になる原因もたくさんありすぎて、聞いているこ  
ちらが疲れてしまう位だった。

そして、背骨をチェックしてみると、予想以上に安定感を  
失っている関節が増えている。

しかし、この患者さんの症状に関しては、この不安定感を  
正せば治ることは実証済みであるため、何の躊躇もなく、

灸で整えていく。

そして、起き上がってみると、やはりフラフラする感じがなくなっている。

後は、どうやって疲れを溜めこまないかだが、しばらく忙しそうなので、こまめに疲労回復する時間を取る必要があるだろう。

背骨は、身体の主軸となる大黒柱である。

従って、一か所でも動き過ぎてしまうような、安定感のない関節が存在すると、どんな症状が起こっても不思議ではない。

なぜなら、身体を制御している自律神経は、背骨の関節か

ら全ての臓器へとつながっているからだ。

こう考えると、自律神経失調症は、心の問題ではなく、単なる背骨の問題であることがわかるだろう。

そのため、自律神経失調症を得意としている、カイロプラクティックや整体、鍼灸やマッサージが多いのもうなずけるだろう。

不定愁訴と言われている、いろいろな症状に悩んでいる方で、現在病院に通われている方、もしくは、どこで診てもらえばいいか分からない方は、お近くの国家資格を持った治療院でご相談してください。

もしくは、当院へ相談いただいても構いません。

つらい症状は早めに取り去りましょう。

## ❖ 10：疲労から不定愁訴に！！

40代 女性

妊娠中に腰椎椎間板ヘルニアとなり、その後、帝王切開で  
出産する。

さらにその後、両膝痛、頭痛、慢性化した咳、冷え性、眼  
精疲労など、たくさんの症状が現れ始め、10年以上も続い  
ている。

まず、うつ伏せになってもらい、全身のチェックを行う。

全身がむくんでいて、背骨の状態がわからない。

脈を診ると、かなり、胃の興奮を感じる。

この二つが現れている時大抵本人は、疲れを感じていない。

そして、異常に食欲があるものだ。

食べているから、「自分は元気だ！」とってしまう。

食べ過ぎれば、その分睡眠を取らなければ、消化吸収がうまくいかない。

しかし、胃が興奮している時は、交感神経が働き過ぎていて、不眠に近い症状が現れる。

要は、寝なくても元気でいられるのだ。

そして、この元気は、ただの空元気。

まずは、本来の疲れを抜いて、芯からリラックスさせることで、副交感神経が働きやすくなる環境を作らなければならない。

そこで、棒灸を使用し、全身のむくみを流しながら、奥の緊張を取り除いた。

全体的なバランスを整えることだけで治療を終了した。

ほとんどの症状は、しっかり眠れるようになれば、日に日に良くなるはずだ。

しかし、唯一気になるところを発見。

これは、本人も気付いていなかったが、右母指が、腱鞘炎になりかけていたのだ。

今回は、この症状を念頭に置いてなかったことから、終了間際に見つけてしまった。

そこで、右手を使いすぎないように気を付けるよう伝え、終了となった。

2週間後、この患者さんを紹介した友人が治療に見え、言うことには、「たった一回の治療で、全部の症状が一気に取れて、ビックリしてた。しかも、予言通り腱鞘炎になっちゃったあ！って、喜んでました。」と、痛い腱鞘炎のことより、他の症状が取れたことに、非常に喜んでいたということである。

この方は、妊娠中から疲労が溜まり、腰で体重を支えきれなくなり、ヘルニアを発症。

出産後も、引き続き疲労をため続けたため、いろいろな症状を発症しつつ、現在に至った。

疲労が溜まっていると、怪我や病気がなかなか治らない。

治すにも体力が必要だからだ。

むくんでいるところは、疲れているところ。

むくみを流せば、疲れはとれる。

そして、むくみの下から、疲れた筋肉や内臓の反応が現れる。

これらを、取り除くことが出来れば、症状を取り去ることができるのだ。

# もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、  
全102ページ、販売価格1,980円

## あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを**無料でプレゼント**させていただいています。  
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。  
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。  
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生

メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス  
キュアハウス鍼灸治療院  
院長 中村幸生